アートアイランズ TOKYO 2017

第7回 国際現代美術展

コウサする花探しの航路(たび)よ

報告集／ REPORT

アートアイランズ TOKYO 2017

第7回 国際現代美術展　大島 ＋ 新島

大島会場／OSHIMA : SEP. 2nd, SAT. – 17th, SUN.

新島会場／NIIJIMA : AUG. 29th, TUE. – SEP.15th, FRI.

コウサする花探しの航路(たび)よ

縹渺たる間に、此処と彼方の視線が漂い、
　　一瞬、視線は微かに触れ合う。

はるか以前から花探し人は、わたしでありあなた。
無我の島で漂游する個々の精神が触れ合う。

此処と彼方が、一粒の花の種を持つのなら、
　　大洋に浮かぶ地は、結節の島。

持ち寄りし種の開花まで、
　　共に碇泊し、新たな航路を続けよう。

Upon a Voyage Crisscrossing in Quest of the Flower

In ye vastness, glances flicker one another,
　　to gently touch each other at a moment.

Since long time ago, ye flower questlinghath been thou, and I.
Individual spirits wafting come in touch in the island o'Anataman.

Had this and ye Beyond one single seed of the flower,
　　the land amid the deep should be Insula Nodorum.

Until the seeds we brought sprout buds,
　　we shall moor here together at anchor,
　　then set out on a new voyage.

Art Islands TOKYO 2017 The 7th International Contemporary Art Exhibition
Oshima + Niijima

参加作家／ARTISTS

内海 仁／ Hitoshi UTSUMI
佐々木 薫／ Kaoru SASAKI
柴辻 健吾／ Kengo SHIBATSUJI
庄子 勝治／ Masaharu SHOWJI
シン イフィー／ Ifie SIN [韓国／KOREA]
関 直美／ Naomi SEKI
曽根 光子／ Mitsuko SONE
高草木 裕子／ Hiroko TAKAKUSAKI
髙田 芳樹／ Yoshiki TAKATA
高嶺 春夫／ Haruo TAKAMINE
竪川 可奈／ Kana TATEKAWA
田中 宏美／ Hiromi TANAKA
辻村 ありさ／ Arisa TSUJIMURA
土屋 由貴／ Yuki TSUCHIYA
ティン チャオン - ウェン／ Chaong-Wen TING [台湾／TAIWAN]
戸島 大輔／ Daisuke TOSHIMA
中田 朝乃／ Asano NAKADA
中谷 欣也／ Kinya NAKATANI
原 博史／ Hiroshi HARA
広田 美穂／ Miho HIROTA
藤沢 恵／ Megumi FUJISAWA
ブラックバーン レイチェル／ Rachel BLACKBURN [ニュージーランド／NEWZEALAND]
アルドリッジ ジェイソン／ Jason ALDRIDGE [ニュージーランド／NEWZEALAND]
細川 麻実子／ Mamiko HOSOKAWA
本多 真理子／ Mariko HONDA
南 優／ Yu MINAMI
油井 瑞樹／ Mizuki YUI
吉岡 朝美／ Tomomi YOSHIOKA
李 容旭／ Yong-uk LEE [韓国／KOREA]

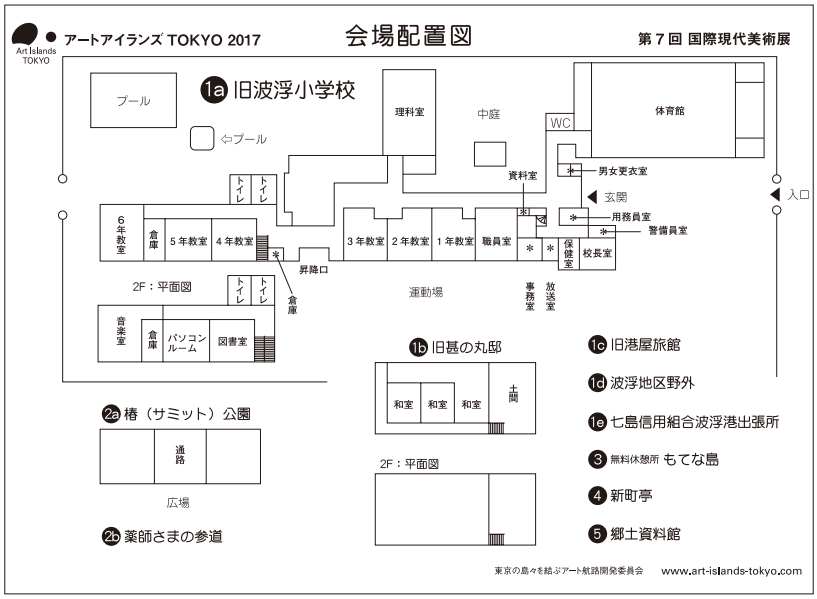
第 7 回目の今年は国内外の作家ともに若手が多く集い、作家同士の交流も熱心だった。滞在中は真摯に作品と対峙し、共に過ごす時間が心地よく感じられた。会場は旧波浮小学校、旧甚の丸邸、波浮地区の宅地、元町（椿サミット公園・新町亭・薬師堂の森）、北の山（郷土資料館）に、今回、作家の希望により「旧港屋旅館」（川端康成の「伊豆の踊子」に由来）が初めて加わった。そのことで第 4 回以降途絶えていた、見学コースが再び港へと繋がった。

コラテラルは大島在住作家、尾形勝義氏の「リニューアルオープン展」が、アートスペース WHITEHEAD で、他に「めざめる色と形 2017」恵の園、「大島が好き写真展」藤井工房で開催された。

このところ毎年訪れて欲しくない客もやってくる。台風だ。オープニングには台風 15 号、パフォーマンスアーティストの来島も危ぶまれたが、ルートを変更するなどして会場に到着。「パフォーマンスの夕べ」は翌日のニュージーランド作家の演奏と連日実施できた。島ガールツアーの日には台風 19 号、日帰り見学ツアーでは、船の運航すら案じられる中、8 名の方々が参加された。風雨にめげず足を運んでくださった方々に感謝。

雨が降ると感じる、メイン会場である旧波浮小学校校舎も、廃校になって 8 年の歳月が過ぎ、船をイメージした意匠が窺える建築も老朽化が目立ってきたことを。

旧波浮小学校
メイン会場、134 年の歴史をもつ小学校。建物全体が船を模して設計されており、此所で学んだ生徒たちの希望がつまっている。2009 年に閉校となる。



旧港屋旅館
波浮港が、水揚げ日本一の港として賑わっていた時代。多くの旅館や料理屋などが狭い地域に密集していた。その面影を残す木造 3 階建ての旅館は、明治時代に建てられた。現在は 2 階までを「踊り子の里資料館」として公開。本美術展として今回初めて使用した。

旧甚の丸邸
もと網元の屋敷。黒漆喰のナマコ塀。
大きなソテツが迎える庭。波浮港の往時を伝える数少ない建物の一つ。

薬師堂の森・参道
「おびんずるさま」とも呼ばれ、薬師如来像のほかに賓頭盧像が安置されている。
元町の石畳の参道「吉谷神社」の飛び地とされてる。

新町亭
安永元年（1772 年）船持ちの旦那である那知家が建造。大島では数少ない江戸時代の既存建物。船底天井・曲り梁の大島の伝統的建築様式で、平成 25 年台風 26 号土砂災害からも免れ、現在保存・活用を目指している。

場所：警備員室

虚に浸る／ Dipping in Emptiness

〔シャツ、ハンガー、麻紐、大島の土／ Shirts, Hangers (coat), Hemp strings, Oshima soil〕

南 優／ Yu MINAMI

2017 福島からの手紙３（福島）、個展（東京）
2015 Traveling Minds 4th（インドネシア）
2014「袖ふれあうも堀尾貞治」展（東京）、「Pace（パーチェ）－平和」展（イタリア）
Four traveling minds 漂う空気（東京）
2013/16 かがわ・山なみ芸術祭（香川）
2013 10 Echoes Between Conscience 反響する精神（香川）
2012/13/15/16/17 アートアイランズ TOKYO・波浮港国際現代美術展（東京）
2011/12/14/15/16/17 ZIKKEN 展（香川）
2008 ～ 17 アートでたんぼ（香川）

765-0021 香川県善通寺市下吉田町 91-1　jaz373@gmail.com

場所：保健室

チクチクぬいぬい

〔布、糸、ビーズ／ Cloth, Thread, Beads〕

昨年初めて大島を訪れ、その風はとても心地よかった。
そこでみんなで同じ時間を過ごしながら風を受けるカーテンを作りました。
その後、別なところで、パッチワークを増やしたり風を受けたりして来ました。
今年は、昨年と違った思いで、その作業を続けようと思います。

When I visited Oshima Island for the first time last year,
I felt the winds from the sea very comfortable.
So, I made the curtains of the wind with everyone while staying this Island.
And after that I increased patches and let them flutter to several places.
This year I continue making them in Oshima Island.

記憶の痕跡

〔布、棒／ Cloth, Rod〕

旧波浮小学校のブランコや鉄棒が無くなってしまいました。
唯一、小学校であったという痕跡が無くなってしまいました…。

曽根 光子／ Mitsuko SONE

神奈川生まれ
武蔵野美術大学卒

2017 “Endless Beginning”（モンゴル）
“チクチク ぬいぬい”（Gallery DO DO、東京）
2016 アートアイランズ TOKYO 国際現代美術展（大島、東京）
2015 小田原ビエンナーレ（小田原、神奈川）

tokitokiusagi@gmail.com mitsukosone.jimdo.com

場所：印刷室

場所：新館階段下

I'd like you to discover the phenomenon of the water surface in this video installation like I experienced on the coast of Oshima.

海を超えてここにやって来た／ Beyond the Sea

〔映像、理科室のレンズ、海辺で拾った物、テキスト、大島と東京で集めた音〕

かつて印刷室であったこと、小学校として機能していた場所について、当初は思いを馳せようとしていました。
しかしここに来て、やはり作品は自分の興味のあることにどうしても繋がってしまうのだと思いました。
それは、ひとりの時間に立ち会った「みなも」の発見、レンズを通した現象、時と場の変容、ということのようです。

土屋 由貴／ Yuki TSUCHIYA

1985 東京都生まれ
2007「イメージフォーラム・フェスティバル 2007」一般公募部門 入選
2010 武蔵野美術大学大学院映像コース 修了
2011「イメージフォーラム・フェスティバル 2011」一般公募部門 優秀賞
「千代田芸術祭 2011」3331 Arts Chiyoda（東京）
「Holiday vol.6」ギャラリー KINGYO（東京）
2013「物語 跡 作品大展 Tale & Trace Exhibition」Shanghai Fashion Hub（上海）
2017「土屋由貴・野村叔子二人展」SYOKU-YABO 農園（神奈川）
個展「For Your Eyes Only」新美ギャラリー（東京）

156-0043 東京都世田谷区松原 2-42-5-403 yukitcy@gmail.com yukitcy.tumblr.com/

場所：1 階廊下丸窓

view ー大地の力ー

〔 ベニヤ、アクリル絵具 〕

大島に来ると､改めて自然の脅威を感じる。

噴火により、一瞬で失われる緑も、すぐに根づいて何年かたてば青々としていく。

そんな、植物のパワー、大地のパワーを表現したいなぁと。

再 生

〔 アクリル絵具、アクリルスプレー、紙の筒、造花 〕

場所：資料室

田中 宏美／ Hiromi TANAKA

2002 女子美術大学大学院修了
[個 展]
2002, 03, 04, 06, 09, 11, 13, 15, 17　Oギャラリー（銀座・東京）
2009, 10, 12　PNB-1253（秩父・埼玉）
[コンクール、グループ展等]
2003 関口芸術基金賞入選（柏市民ギャラリー・千葉）
　　公募展・美術誕生入選（八王子市夢美術館・東京）
2004 未来に開かれた空間展（神奈川大学セレストギャラリー）
2009 VOCA 展（上野の森美術館）

274-0825 千葉県船橋市前原西 4-31-2-407　　hiromi_artist@yahoo.co.jp

場所：1 年教室

だれにも知られないように／ So that it is not known to anyone.

［紙、糸／ Paper, Thread］

気づけずに通り過ぎゆく日々。
そこにはそれぞれあらゆるものが存在している。
日々感じる外側との間。
その言葉にすらあらわせない感覚の間に絶えずせわしなく動いている。
感じたことを形跡として残したい。
過ぎゆくものを止めた先に何があるのかー。

吉岡 朝美／ Tomomi YOSHIOKA

1987 札幌生まれ
2012 東北芸術工科大学大学院芸術文化専攻彫刻領域修了

[活動歴]
2015 個展「trace」／人形町ヴィジョンズ（東京）
2013「交差する場所」／藍画廊（東京）
2012「SENSITIVE SKIN －曖昧な輪郭」高坂静香・吉岡朝美／ GALLERY kingyo（東京）
2011「アンテナ」東北芸術工科大学大学院修士彫刻展／ MAKIIMASARU FINEARTS（東京）

t.yoshioka.23@gmail.com
tomomi-yoshioka.wixsite.com/t-y-works

場所：2 年教室

Habu Primary Colours

[Screen printed cotton voile, Bamboo, String]

Using hand cut stencil to create textile pattern and print, our interest was in blending colours through layers of fabric and light. Using cyan, magenta and yellow to achieve secondary colour and constrasting between large pattern prints and linear cuts. A sense of school fun and island daydream was the result of this textile collaboration influenced by our time in Oshima. Our work is a way of exploring light in another hemisphere as well as representing a pacific island style from were we reside. This work is a tribute to the Japanese legacy of the sun.

ブラックバーン レイチェル&アルドリッジ ジェイソン
Rachel BLACKBURN and Jason ALDRIDGE [ニュージーランド／ NEW ZEALAND]

Our artistic vision is a representation of what inspires us. Positivity and fun! We aim to reflect back and hope to inspire others in turn.
Art to us is for everyone.
We have a history of developing and collaborating within Artist run spaces and DIY exhibitions in our home town of Dunedin, New Zealand. 'Steep Street,' our label, functions as a creative outlet for our fashion, music and art. This involves pattern design, screenprint, airbrush and handpaint on textiles. Our designs incorporate drawing and repeats. We also engage with canvas and installation. 'Murdabike' is our project of Electronic music, where we incorporate our textile designs into costumes and experiment with light and props.

5 Steep ST., Dunedin, Otago, New Zealand 9016 racular@gmail.com

場所：3 年教室

軌 跡／ Trajectory

〔不織布、セロファン、トレーシングペーパー、寒冷紗、アクリル絵の具〕

この地で味わった大島牛乳から、様々な想像が広がった。

牧場が始まった頃の様子、そこから見える天空

夜空－静かながら次々に繰り広げられる天体 show

昼空－大気の動きと陽射しの木漏れ日ダンス

佐々木 薫／ Kaoru SASAKI

“見えないけれど そこにある” ものとの出会いを大切にしている。
その場所の持つ独特な空間を生かすよう、場所と対話しながら作り上げて行きたい。

[アーティスト・イン・レジデンス]

2010 ～ 17　藤沢今昔まちなかアートめぐり 企画参加
2013　丹沢アートフェスティバル
2006　Japan meets Linne（スウェーデン）
2005, 06, 08 国際野外の表現展比企（埼玉）
2000　Le Traite Fragile（フランス）
1995, 96　日仏現代美術交流（フランス・京都）
2007 我孫子国際野外美術展
2006 越後妻有トリエンナーレ（新潟）
2001 人と塩と美術と 企画参加（宮城）
1998 塩の芸術・芸術の変容（フランス）
1986 大谷地下美術展

251-0047 神奈川県藤沢市辻堂 6-10-27　moftail2323@ybb.ne.jp

場所：昇降口

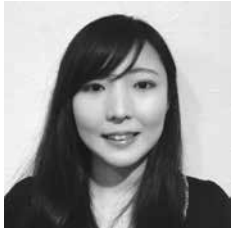
うみかぜ／ Sea Wind

〔ビニール／ Vinyl〕

海からやってきた風は、様々な生き物や物に触れながら島を巡り、
海へ帰っていく。

Wind from the sea
Touch various living things and things
Go around the island back to the sea

辻村 ありさ／ Arisa TSUJIMURA



1988 年生まれ
2014　東京造形大学卒業

2012「Resonance －共鳴」アートラボはしもと（神奈川）
2013「彫刻の五・七・五－かたちで詠む奥の細道」（沖縄）
　　「金沢彫刻祭」（石川）
2014「To 美 continued」遊美工房（岡山）
2015「Art is Long －めぐりあい－」絵の具箱（東京）
2016「アートアイランズ TOKYO2016」（伊豆大島）

194-0211 東京都町田市相原町 1240-13-301　shiro.usagiwo.oikakete@gmail.com　creatorsbank.com/tsujimura

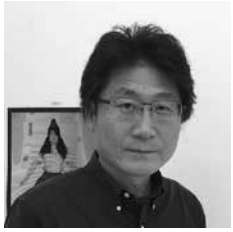
場所：新館階段

追憶の階段／ Stairs of Reminiscence

［写真 サイズ可変／ Still image variable size］

134 年の歴史をもつ波浮小学校。廃校して 8 年。卒業アルバムを拝見、多くの子供に出会いました。80 年前の子供。時空を越え、思いを馳せます。手法は「拡大」。卒業アルバムの写真を大きく伸ばすことがもたらす空間を階段に提示しました。
Habu elementary school has 134 years of history. It was closed in 2009. I found old graduation photo albums. I was impressed when I saw many pictures of children from 80 years ago. They made me think of the old days. In this work, I experimented “enlarging” technique to pictures from the photo albums.

李 容旭／ Yong-uk LEE［韓国／ KOREA］



映像作家、美術家／ Visual Artist, Educator
[GROUP] 2014「お山の駱駝のために No.2-2014」再生プロジェクト、大島／東京
2016 かわさきでアート、川崎 ’14 ’15
ART Meeting、いわき／福島 ’14 ’15
[SOLO] 2012 ギャラリー十月 • 新宿／ Gallery Zyugatu, Sinzyuku
マンゴーへの道／ The Road of Mango ギャラリー清水、横浜／
Gallery Shimizu, Yokohama、御宿の Blue and Green、
ギャラリー DECCO、御宿／ Gallery Decco, Onjuku
2015 HAPPY Project ギャラリー檜、東京

165-8678 東京都中野区本町 2-9-5 東京工芸大学芸術学部映像学科 lee@img.t-kougei.ac.jp

場所：5 年教室

Re: Feel of Space

〔Drifted woods of Oshima, Fishing and glass float〕

そこに在るもので創り、感じ、受け止める作業。

高嶺 春夫／ Haruo TAKAMINE

1993 武蔵野美術学園卒業　1995 小笠原村父島に移住
2008 小笠原はるくまアートプロジェクト「OGAH CAP」立ち上げ
　　企画展「0」展 開催
2009 企画展「じかん」展 開催
2010 企画展「蛸」展 開催
2011 企画展「赤ちゃんが来た」展 開催
2012 企画展「チョコレイト」展 開催
2013 企画展「忘れ物」展 開催
2015 企画展「嫉妬」展 開催

100-2101 東京都小笠原村父島字清瀬清瀬都住 5-203　haru-kumao@mb.0038.net

場所：6 年教室

Humming Bird

〔紙テープ〕

不安と希望。

緊張と開放。

さまざまな感情が入り混じって波を越えていく。

島には変わらない日々と、鳥たちのさえずり。

戸島 大輔／ Daisuke TOSHIMA

2015「path」OGU MAG、東尾久、東京
「中之条ビエンナーレ 2015」伊参スタジオ、中之条町、群馬
「NOWHERE2015」山梨県立美術館、甲府市、山梨
「対岸の花、線路、坂道、小さな家、石ころの山」ギャラリーハライソ、西荻窪、東京
2014「slow ballad」OGU MAG、東尾久、東京
「記憶について」Gallery KINGYO、千駄木、東京
「清里現代彫刻展 2014」K*MoPA、北杜市、山梨
「Reflection Eternal」福光園寺、笛吹市、山梨
2013「中之条ビエンナーレ 2013」旧廣盛酒造、中之条町、群馬

167-0053 杉並区西荻南 2-10-9-101　daisuke.toshima@gmail.com　daisuketoshima.wixsite.com/dtcm

場所：図書室

なにか聞こえる

〔アルミ板〕

空間構成というより泥くさいオブジェをつくりたかった。限りある時間の中で、どこまでできるか。これもアートアイランズならではの醍醐味である。結果、トドのようなかたちになった。バラシの方法を考えないわけでもなかったが、どう小さくして持って帰るかが課題となった。行きはよいよい、帰りはこわい、こわいながらのとおりゃんせ。

協力：メタルアートミュージアム光の谷

関 直美／ Naomo SEKI

多摩美術大学・同大学院で彫刻を学び修了
2000「公開制作 in 上海」上海製紙研究所／中国
2002「ロッフブーラ国際彫刻シンポジウム」アイルランド
2003「おんなのけしき世界のとどろき」東京日仏学院／東京
2006「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ」越後・妻有
2007 アイルランド現代美術館にアーチストプログラムで滞在
2011「ACkid」キッドアイラックアートホール／東京／ 2011-2016
2013「ART MEETING 2013」いわき ／ 2013, 2014, 2016
2015「アートプログラム青梅」吉川英治記念館／東京

212-0024 神奈川県川崎市幸区塚越 3-380　naomihitery@gmail.com　naomi-seki.com

場所：パソコンルーム

暗黒方程式／ Darkness Equation

［セメント、VHS ビデオ］

＜暗黒方程式＞もう一度、非文化的地理学の境界、その輪郭を描き出してみたい。三原火山は、無数の噴火によって特殊な地形を形成してきたが、その背後では、社会の不安と災害への期待を象徴するような、火山岩の黒砂漠が覆う、異質な空間の身体経験と幻覚を提供してきた。クリエイターが伊豆大島の創造性に思いを巡らせ制作した、フィクションの災害映画やホラー映画は、この場所（伊豆大島）の認識あるいは誤解を形作ってきた *1。さらに一歩進んで、文化生産システムにおける視覚化の過程の象徴、そして、物質によってどのように、偏見、メタファー、不可視な歴史に転化されるのかを探ってみたい。

*1 日本のホラー映画「リング」（1998）、日本の怪獣映画「ゴジラ」（1959）

丁 昶文／ティン チャオン - ウェン／ Chaong-Wen TING ［台湾／ TAIWAN］

Born in 1979, living and working in Tainan, Taiwan. Ting Chaong-Wen is interested in the composition of memory. His works always present the measurement of local histories and cultural links. Ting is an installation artist and a visual designer. His artworks are often inspired by his own experiences and often include ready–made objects, which through the context of a particular exhibition, become part of a particular historical narrative. Thus artist deconstructs, interprets, and reinterprets our shared history in surprising and innovate ways. He examines dominant values, historical conflicts such as colonialism, migration, and cultural collective memory and their cross-border existence.

No.171, Zhongqin St., West Dist., Taichung City 403, Taiwan　tingchenwen@gmail.com　tingchaongwen.weebly.com

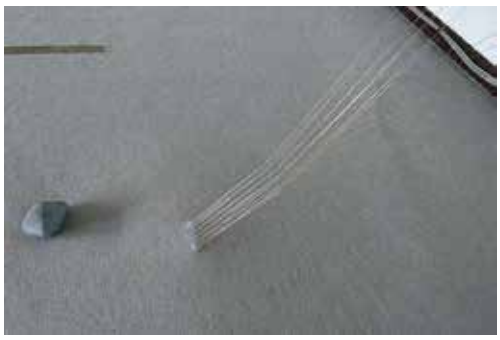
場所：音楽室

矛盾の在り方／ The Way of Contradiction

〔小松石、花崗岩、糸、真鍮〕

意識せずに、ある領域間を行き来していることがある。
同一の言語による対話のつもりでも、他言語的作用が起こることがある。
このことは、自身の立ち位置を意識したときに初めて明確となる。
世界は未分化であり多元的だ。

私は、矛盾を内包した在り方を模索している。



藤沢 恵／ Megumi FUJISAWA

2017 個展（K's Gallery ／銀座）
2016 Stones & Women 3（いりや画廊／上野）
2015 二科 彫刻部 会友推挙
2014 我孫子国際野外美術展（我孫子市内／千葉))
2013 個展（GALLERY KINGYO ／千駄木)　　選抜新人作家展 (現代彫刻美術館／目黒）
2009 彫刻 5 人展（ギャラリー・オカベ／銀座）
2008 中之条ビエンナーレ（群馬）
[パブリックコレクション]
2010 風の丘公園（金山町／山形）、農林漁業体験実習館（舟形町／山形）

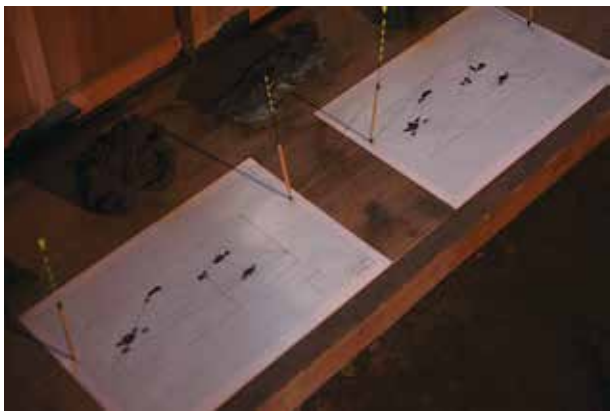
id_crack_up@live.jp

場所：旧甚の丸邸 土間

The Garden with Cold Volcano

[Volcanic stone, Concrete, Fishing rod, Fishing bobber]

A garden is a particular area of consisting mainly natural ingredients, artificial materials and architecture structures. As well as, garden is a reflection of the local culture and collect of society, life and art. Accordingly, I will rearrange “artificial” cold garden with white concrete and fishing object inspired by volcanoes of Oshima.



シン イフィー／ Ifie SIN［韓国／ KOREA］

Received MFA at École européenne supérieure de l’image in France, she works mainly with video as well as performance and installation. She has participated in several group shows in France, Senegal, Taiwan, and Korea.
Sin Ifie’s “Laboratory Observations” microscopically visualizes the human relationship in groups and society. It recognizes human behaviors above personal dimension but as occurring in a social dimension, repeating and patterning familiar daily phenomenon to view them differently.

442-1, Dorim-ro, Yeongdeungpo-gu, Seoul, Republic of Korea, 07299 sinifie.m@gmail.com **www.sinifie.com**

場所：旧甚の丸邸 和室

支

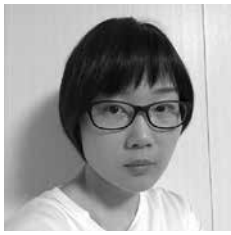
〔新島村の石、ボンド、ダンボール〕

島の人々のつながりは濃い。

支え合うことを前提につながり、様々な変化を伴いながらも離れることはない。

離れないことは支えることとなる。

中田 朝乃／ Asano NAKADA



2008 東北芸術工科大学 芸術文化専攻日本画研究領域修了
[個 展]
2008 なびす画廊
2010 ART-SPACE KEIHO
2013 ギャラリーなつか、'16
[グループ展]
2014 3つの変化でアートが変わる／ATELIER.K、BOX ART-takarabako／ATELIER.K
2015 西原東洋×中田朝乃 二人展／ATELIER.K、ピョンチャンビエンナーレ参加／韓国
2016 2016 画廊企画 Part 3 アマダレ／画廊翠巒、FIFTH ELEMENTS—5つの要素／ATELIER.K

100-0401 東京都新島村若郷 1-3-1-201　　asano01090109@icloud.com

場所：旧港屋旅館

港屋旅館で／ at Minatoya Ryokan

〔粘土、兵児帯、葉書、石膏、掛軸、他／ Clay, Hekoobi, Post card, Plaster, Hanging scroll, etc.〕

旧港屋旅館で、踊子たちの声が聞こえる。
彼女たちの時間。
The voices of women are heard at old Minatoya Ryokan.
Their times start at there.

場所：放送室

箪笥の子／ The Girl of the Chest

〔手描きアニメーション／ Animation〕

広田 美穂／ Miho HIROTA

1986 年の初個展から現在まで、布を多用した立体造形から、様々な素材、テーマによるインスタレーションを、レジデンスでは、場所をさぐりつつ制作している。

アートアイランズ TOKYO 国際美術展には 2014 年にも参加。

2017 年の展覧会は、我孫子国際野外美術展（布佐駅）、兜超薬（SPC ギャラリー）、
現代アーチストセンター展（東京都美術館ギャラリー）、今日の反核反戦展（丸木美術館）。

235-0015 神奈川県横浜市磯子区久木町 8-4　　kiririn_mi@ybb.ne.jp

場所：波浮地区野外

岩 頸

〔篠竹、藁紐、墨〕

鑑賞者の持つ概念を引き出す。
印象的な形や素材を見た時に、
人は何か知っているものに例えようとする。

柴辻 健吾／ Kengo SHIBATSUJI

1982 大阪府吹田市生まれ
2012 東京藝術大学 大学院 美術研究科 彫刻専攻 卒業

2016 第 4 回筑波国際野外現代芸術展　柴辻姉弟展 part Ⅱ（十一月画廊 / 東京）
画廊コンサート in 西方寺　彫刻×ホルン（西方寺 / 東京）
堺アルテポルト黄金芸術祭（堺市 / 大阪府）
2015 のせでんアートライン妙見の森 2015（西宮市 / 兵庫県）
中国広州日本現代アート展 2015「胎動」（53 美術館 / 広州 / 中国）
2014 西宮船坂ビエンナーレ 2014（西宮市 船坂 / 兵庫県）

277-0852 千葉県柏市旭町 6-5-8-102　　daikoukai2009@gmail.com

場所：椿（サミット）公園

「out・in」引力と遊ぶ

〔石、布（ジャージ）、その他〕

「out・in」見えるもの？見えないもの？

〔石、布（ジャージ）、その他〕

場所：2 階廊下

「out・in」サマータイム

〔ネクタイ〕

場所：郷土資料館 椿林

中谷 欣也／ Kinya NAKATANI

1989 ギャラリー K（東京）、'90 '91 '92
1988 ギャラリー藍（東京）、2000 '01 '09
2008「生きてる美術」神奈川県民ホール（横浜）
2013 アトリエ K（横浜）、'16
2014「アート @ つちざわ（土澤）」街かど美術館（岩手県）
「1 + 6 in HCMC」fine arts musemum ホーチミン（ベトナム）
2016「追分ビエンナーレ」軽井沢（長野）

252-0114 神奈川県相模原市緑区葉山島 182　　km.nakatani@h4.dion.ne.jp

場所：椿（サミット）公園

Red Line Connection 2017

［鉄、毛糸］

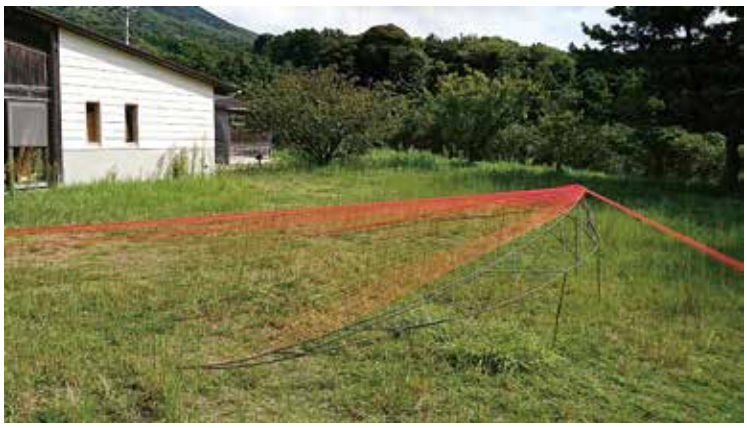
赤い糸は温かさ、強さ、屋外の緑の中でそこに在るという存在感を保つ。

毛糸は撚った糸のしなやかで強靭な復元力を有している。

雨風、他の負荷がかかるとも可能な限り形を変える。そしてその幅をだんだんと縮めながら

元の形に戻ってゆく。

ひとりの人の存在のごとく。



本多 真理子／ Mariko HONDA

[個 展]
1991 年よりルナミ画廊、秋山画廊、エル・ポエタ、TOKI Art Space、GALERIE SOL、RAMP Gallery、Weissraum、ぎゃらりー由芽、ギャラリー健

[グループ展、野外展、アートシンポジウム、ほか]
1989 年より日本、リトアニア、韓国、オーストリア、ルーマニア、ドイツ、タイ

[パブリックコレクション]
北原脳神経外科脳ドックセンター施設：エントランス壁画レリーフ
新明電機社屋：創業者家族像、二代目家族像

362-0813 埼玉県北足立郡伊奈町学園 2-2　　hondamariko822@yahoo.co.jp

場所：薬師さまの参道

蓄光島／ Glow Islands

［落ち葉、水性塗料、蓄光塗料］

壁に掛けた白いキャンバスと対面したとき、すでにぼんやりとイメージを投影している自分がいました。その白いキャンバスの表面は、画家の行為が施される前に、脈々と紡がれてきた絵画の表面と繋がっていて、表現の世界から届く一筋の光を蓄え続けている表面、という気がしました。ただの白、麻布、木材であるのに。

このことは大島で出会った素材にも見出すことができました。海面が反射する光、島を覆う緑を繁茂する光、島の人々の歴史を思うときに伴ってくる光、それらの光を蓄え続けている表面が、脈々と続く島の営みを映し出している。

ものを見ながらにしてイメージを喚起させられる、視線が時間を越えて行き来するようなところが世界の成り立ちの一端を表している、それが表現であると考えました。

場所：旧甚の丸邸２階

油井 瑞樹／ Mizuki YUI

1978 年 福島県福島市生まれ
2005 多摩美術大学大学院油画専攻卒業
[個 展]
ギャラリー現、ギャラリー 21 +葉、アートトレイスギャラリー、トキ・アートスペース
[グループ展]
「暗月—a dark moon 」展（烏山秀直、諏訪未知、油井瑞樹による３人展）
「福島からの手紙 part2」アートスペース月光醤油／福島市
その他多数参加

157-0071 東京都世田谷区千歳台 3-3-12　　emulsion58@gmail.com

場所：新町亭

焔／ Rising Flame

〔キャンバス、油絵の具、油煙／ Canvas, Oil paint, Oil smoke〕

古来より人々の火をめぐる思いには、浄化や怒り、恐怖、崇高など畏怖の念が込められている。油を燃やし煤でその形をうつしとった。定着した黒には、混じりけのないピュアな素の美がある。

原 博史／ Hiroshi HARA

1956 年高松市に生まれる。1956 年 多摩美術大学絵画科 卒業

[個 展]

2016 年ギャラリー Art Beatus（香港）、2012、14 ～ 17 年あーとらんどギャラリー（香川県／丸亀市）、2007、08、10、15 年ギャラリーなつか（銀座・東京都）2008 年ギャラリー Art Beatus（バンクバー市）

[公募展・グループ展]

2013 ～ 16 年「かがわ・山なみ芸術祭」（香川県 / まんのう町）、2014、15 年「神戸アートマルシ 2014」KOUBE MERIKEN PARK ORIENTAL HOTEL（神戸市）、「Art Nagoya 2014」ウェスティンナゴヤキャッスル 9F フロア（名古屋市）、「アートアイランズ TOKYO」東京都大島町、2012 年「Unbound Perspectives Exhibition」Agora gallry（New York）

2012 年「Art Taipei 2012」Taipei World Trade Center（Taiwan）

766-0202 香川県仲多度郡まんのう町中通 675　　tanikaw@me.com

人は作品を見るとき、作品と自分の間に一定の距離を置いていることで、その作品を評価することが多い。
最近のリレーションアート・参加型アートは、その距離感を縮める或いは無くすことによる表現でもある。展示発表以外の各イベントは、鑑賞する側から作家との距離を縮める機会となる。

世界の子どもたちの絵画展
8 月 25 日 [金] ～ 9 月 14 日 [木]
場所：七島信用組合波浮港出張所

作品設置作業
8 月 21 日 [月] ～ 9 月 1 日 [金]

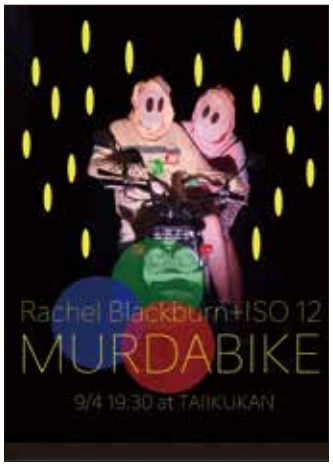
波浮地区作品見学会
9 月 2 日 [土]、16 日 [土]

美術展・作家プレゼンテーション
8 月 27 日 [日]
場所：休憩所 もてな島

音のパフォーマンス
オープニングイベント
9 月 2 日 [土]

庄司 勝治
sax 奏者
広島生まれ、在住。故井上敬三氏に師事。
'92 年ロシア・アルハンゲルスクのインターナショナル・ジャズ祭で劇的デビュー。
活動は、'94 年日本大使館（在仏）主催、音と美術のコラボレーション、厳島 1400 年祭音楽劇、ビヨンド・イノセンス・インターナショナル・シアター祭（韓国）、マグマプロジェクト、ダライラマ提唱「聖なる音楽祭」等、多ジャンル・多国籍で、多様多数の共演者・空間を持つ。

パフォーマンスの夕べ
9 月 3 日 [日]
sax：庄司 勝治
身体表現：不二乃家 舞



MurdaBike
パフォーマンスの夕べ
Rachel Blackburn
and ISO12
9 月 4 日 [月]
場所：体育館

映像ワークショップ／ Moving Image Workshop　東京工芸大学芸術学部映像学科映像情報研究室

8 月 29 日 [火] ～ 30 日 [水]
場所：大島町郷土資料館

テーマ：大島の色を探せ
映像の撮影を通して大島の色を探し、色パレットを制作。発見された色パレットを使用して、自由に絵を描き映像のタイトルや素材に使用した。

参加者：研究室の学生 13 名と大島第一中学校の生徒 6 名、引率教員 1 名

展示場所：更衣室

ツアー／ Tours　東海汽船企画

島ガール：国際現代美術展見学モニターツアー
9 月 10 日 [日] ～ 11 日 [月]

国際現代美術展日帰り見学ツアー
9 月 17 日 [日]

コラテラル／ Collateral　同時期に行われたアートイベントと地域の文化的行事

アートスペース WHITEHEAD
リニューアルオープン展
9 月 3 日 [日] ～ 6 日 [水]
9 月 12 日 [火] ～ 24 日 [日]
場所：大島町元町字仲中 49-48

～めざめる色と形 2017 ～
大島恵の園作品展
9 月 2 日 [土] ～ 9 月 17 日 [日]
場所：喫茶「太平洋」他（恵の園内）
主催：社会福祉法人武蔵野会 大島恵の園

「大島が好き写真展」
9 月 2 日 [土] ～ 9 月 17 日 [日]
場所：藤井工房

地域の文化的行事　波布比咩命神社祭礼　7 月 29 日 [土]、30 日 [日]

第７回国際現代美術展によせて
To the 7th International Contemporary Art Exhibition

この度は、第７回国際現代美術展アートアイランズ TOKYO 2017 の大盛況、心よりお喜び申し上げます。東京の島々を結ぶ航路開発委員会高田委員長をはじめ、関係各位の並々ならぬご尽力に敬意を表します。

「美術展」と聞くと、都心で開催されていることが多いと思いますが、島で開催されることによって、美術展を目的とする来島者が増え、そして美術展を通して島の魅力を伝えることができ、また離島で暮らす島民にとって、美術・アートを直接感じられる機会を与えていただき、心より感謝申し上げます。

回を重ねるうちに新たな課題や目標ができ、様々なご苦労もあるかと思いますが、島ならではの文化・芸術が見出され、沢山の魅力を発信されることを期待しております。

最後になりましたが、アートアイランズ TOKYO 国際現代美術展が今後もますます盛況となり、世界に向けて発展されることを祈念申し上げます。

東京都大島町長 三辻 利弘

Toshihiro MITSUJI
Mayor of Oshima Town

I am delighted to express my heartiest congratulations upon the great success in Art Islands TOKYO 2017, the 7th International Contemporary Art Exhibition. I must herein explicitly remark that this was achieved by many people's considerable efforts and contributions, especially of Mr. Takata, the Chairperson of the *Planning and Development Committee for Contemporary Artways Linking Tokyo Islands*.

While most of art exhibitions are usually held in the city centre of Tokyo, this art exhibition takes place in Oshima. This means that many more visitors come over to the island, that we can in turn tell them the charm of our island, and that islanders are given a good opportunity to come in contact with art works. I profusely appreciate all these things.

I imagine that it is really a tough work to organise such an exhibition, with possibly a newly revised scope and objective each time, but I expect that a new aspect of the culture and art of this island would be found in the meantime and that such charms of this island should be sent out.

Last but not least, I wish that Art Islands Tokyo International Contemporary Art Exhibition would be more prosperous in the future and internationally further burgeoning.

第７回国際現代美術展アートアイランズ TOKYO 2017
「コウサする花探しの航路よ」への挨拶

Acknowledgement for Art Islands TOKYO 2017, the 7th Contemporary Art Exhibition for “Upon a Voyage Crisscrossing in Quest of the Flower”

平成 29 年 9 月 2 日

NPO 波浮の港を愛する会
理事長 秋廣 道郎

Michiro AKIHIRO
Chairperson of the Board,
NPO Habu-no-minato-wo-aisuru-kai
(Non-Profit Organization of
Fans of Habu Harbour)

第 7 回国際現代美術展の開催おめでとうございます。

今年も美術展にお招きして頂き有り難うございます。この美術展がこの波浮港小学校の跡地をメイン会場として始まって、早や７回目となりましたが、年々その内容も充実されているように感じます。この美術展を準備された方々、出品して下さった方々に、心より感謝申し上げます。

今年は、一つ一つの作品をゆっくり拝見することができました。一言でその感想を述べることは困難ですが、私の拙い鑑賞眼でも、それぞれの作品に明確な主張があり、そのメッセージ性を強く感じることができました。

特に、島でうまれ、島で育ち、島で暮らす人にとって、この作品群は、その自然や文化の貴重さや希少性を訴えているかのように感じました。島で暮らす人々の率直な感想を沢山集めて頂けると有り難いですね。

この美術展は、大島全体の皆様にも少しずつ知られ、理解され、見学して頂く方も増えているようです。又、島外からも少なくない方々が参加されるようになりました。今後、大島を代表する美術展として、ますます発展されることを祈念いたします。そして、今後、大島の一大イベントとして、大きくブレークすることを願っております。その為には、波浮港は勿論、大島町を中心として、各種団体・個人の御意見を広く集め、創意工夫をされることを期待いたします。

又、この美術展が大島を超えて、新島は勿論、伊豆七島・小笠原諸島地域全体にも展開され、その豊かな自然と貴重な歴史を踏まえ、新たな芸術・文化の創造の場として見直されることを願ってやみません。

最後に、本美術展に出展された作家に皆さんの益々のご発展を祈念いたします。

2nd Sep. 2017

I would like to offer my deepest congratulations on the 7th International Contemporary Art Exhibition.

I appreciate the invitation letter to the art exhibition this year again. It is already the seventh time that this art exhibition has taken place at the former Habu elementary school as its main venue, and I feel that the exhibition has been getting more and more enriched year after year. I sincerely thank all the people who were involved in the preparation and who exhibited their art works.

This year, I was able to have enough time to fully appreciate each work. It is difficult for me to convey my impression in brief, but I can say I recognised distinct appeals and messages in each work even with my rather unartistic eyes.

Especially to those islanders who were born and grew in this island, those art works, I felt, appealed to appreciate the value and rarity of nature and the culture of our island. I suggest that it surely be an interesting idea to collect very honest feedbacks as many as possible from islanders.

This exhibition has gradually become known and understood better to islanders, and it seems that increasing many people are coming down to appreciate it. In addition, the number of participants and visitors from outside the island is also increasing. I wish this event would be more flourishing as the representative art exhibition in Oshima. I also wish that this exhibition, as a big event in this island, would cause a great sensation in the future. In so doing, opinions should be taken from a wide range of people, whether as the representative of an organisation or as an individual, in Oshimacho as well as Habuminato, to adopt innovative ideas.

I also wish that this art exhibition should expand over Oshima, needless to mention Niijima, up to the whole area of the Seven Islands of Idzu, and Ogasawasa Islands to revisit these places for creating new arts and culture, considering their richness in nature and history.

To conclude my greeting, I wish those artists who participated in this exhibition would be further successful.

新島の各会場は全て徒歩圏内に収まる。作家作品の展示場所となったキンデー宅と、世界の子どもたちの作品展を行った住民センターは村役場の目の前にあり、ワークショップやプレゼンテーション、パフォーマンスなどの会場も近い。その中で、キンデー宅は、30年以上前の生活を思い起こさせる住居である。庭は「苗場」として使われ、囲むように豚舎・蔵・煮炊きや風呂がある火を扱う石の小屋（釜ヤカタ）が配置されている。住居は増築されているが、内部の構造はコーガ石で作られている。

今回、コラテラル作家として展示した陶芸家駒ケ嶺三彩さんは、新島名物の「くさや」工場のコーガ石の廃屋を清掃し華道家平間磨理夫さんと発表をした。パフォーマーの細川麻実子は、十三社神社前で踊りを通して数百年の時間とコラボレーションを試みた。新島会場は、多くの可能性を秘めた場所である。

キンデー宅
写真上から：蔵、豚舎、苗場、釜ヤカタ

世界の子どもたちの絵画展
8月20日[日]～9月6日[水]
場所：住民センター

作品設置作業
8月17日[木]～8月28日[月]

美術展・作家プレゼンテーション
9月10日[日]
場所：新島村商工会感

コラテラル
駒ヶ嶺三彩（陶）＋平間磨理夫（華道家）展
「続く」
8月31日[木]～9月15日[金]
場所：新島本村 鈴幸

地域の文化的行事
大踊り　8月14日[月]若郷妙蓮寺
15日[火]本村 長栄寺
為朝神社祭礼　9月13日[水]

場所：苗場

キンデーの風／ The Wind of Kindie

〔新島の野竹、布、写真／ Bamboo of Niijima, Cloth, Photo〕

コーガ石で囲まれた明治・大正・昭和の暮らしが、時空を超えて流れている。

The living of the Meiji, Taisho and Showa era enclosed by anti-fire stones (a type of pumice or rhyolite) is flowing beyond space-time.

写真提供：前田 孫一、小久保 正雄
Photo provided by Mr. Magokazu Maeda and Mr. Masao Kokubo

竪川 可奈／ Kana TATEKAWA

欧米生活での経験をもとに、独自の価値観で感じることをコンセプト化し、光と影－時間の経過を意識し、インスタレーションを展開。作品が置かれるその場（歴史や文化）、この場の中の作品、「場（歴史や文化）」と「作品」を対峙させて、新たな空気感を検証している。

アートでたんぼ、かがわ・山なみ芸術祭 2016、現在進行形野外展、滝沢アートフィールド、アートウォーキング国立、アートアイランズ TOKYO 国際現代美術展、他に参加。
ギャラリー彩園子、SPC GALLERY、ぎゃらりー由芽、Doizaki Gallery、他で展示。

252-0242 神奈川県相模原市中央区横山 5-7-2　kana@tatekawa.com　www.tatekawa.com

場所：豚舎

穏やかな時間／ Peaceful Time

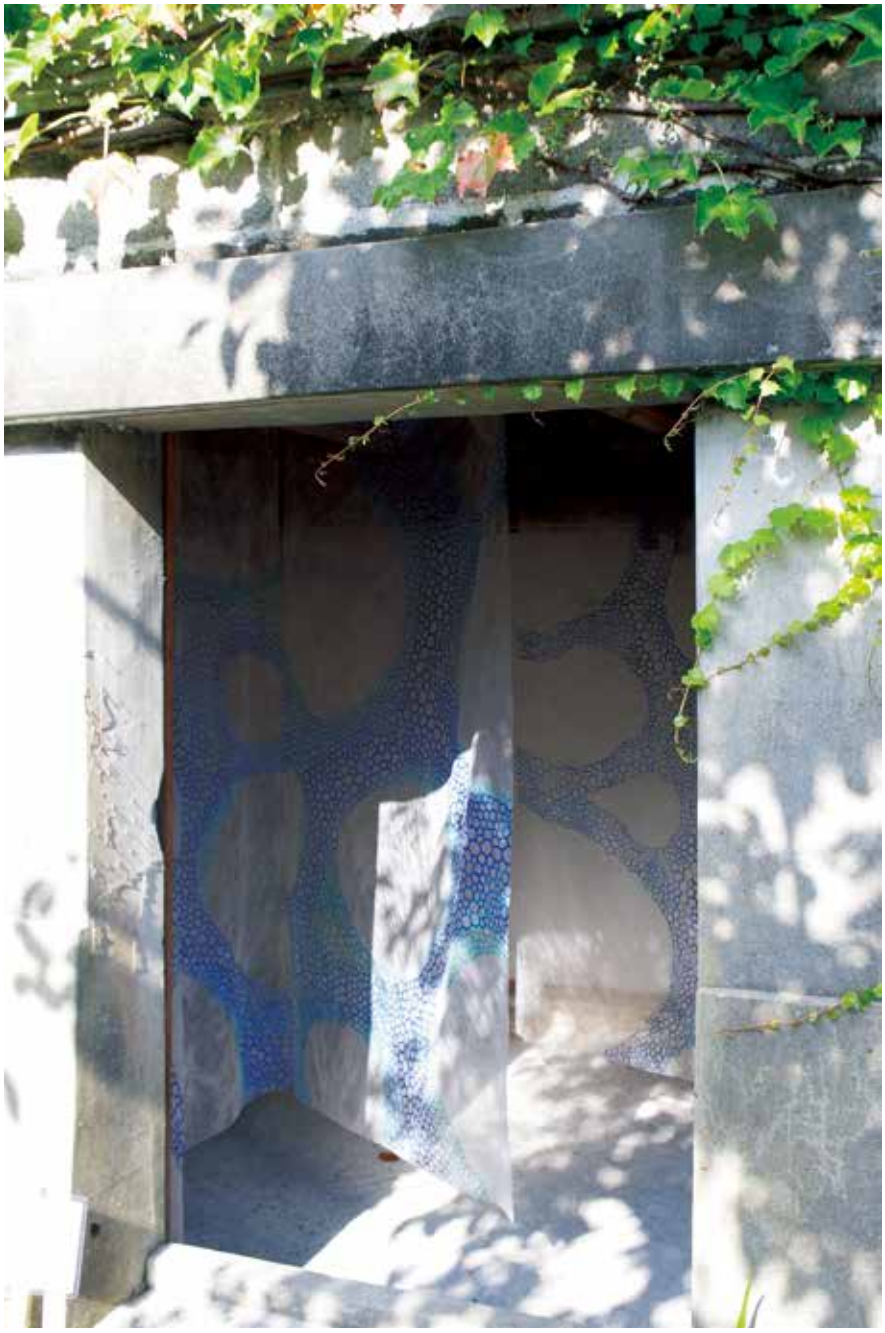
〔竹、笹、ガーゼ、発泡スチロール、コーガ石〕

道一本を隔てて、1960年前後の空気が流れる。日本が「高度成長期」に踊る時代だ。新島にも、少し遅れてその波は訪れたはずだ。
３軒長屋の住民たちの生活は、いかがだったのだろう。
コーガ石の建物は、夏の暑さも冬の風も防いだはずだ。
住民である豚たちの見る風景を追体験する時、その視線の先に何を見るのだろう。

髙田 芳樹／ Yoshiki TAKATA

[2017の活動]
アートでたんぼ（香川県三豊市）
滝沢アートフィールド2017（岩手県盛岡市）
「福島からのてがみ part ３」月光醤油（福島県福島市）
個展「曖昧な記憶」歳時季（東京都杉並区）
遊・桜ヶ丘 現在進行形野外展（東京都多摩市）、他

177-0035 東京都練馬区南田中 2-4-11　tokiotakataka@msn.com　www.y-takata.com



場所：蔵

風を受けそよぐ

〔不織布に油彩〕

石蔵の中に入って作品の裏側にもまわってご鑑賞ください。床面には、新島の白砂を敷きました。

高草木 裕子／ Hiroko TAKAKUSAKI

重層的につながり、すべてが連鎖する世界を描いている。

1987 年より京二画廊、なびす画廊、G アートギャラリー、ギャラリー宏地、埼玉県立近代美術館、masuii R.D.R、Gallery Onetwentyeight、Gallery 青藍、ギャラリー香文木、いりや画廊等で個展。
2013 どこかでお会いしましたね（うらわ美術館、埼玉、'14、'15、'16、'17）
2015 アートアイランズ TOKYO・国際現代美術展 2015（旧甚の丸邸、東京）
2016 ドイツから戻ってきた TEGAMI 5 年目展（鴨江アートセンター、静岡）
国土海洋環境国際美術大展（ソウル市立慶熙宮美術館、韓国）
かがわ・山なみ芸術祭（旧琴南中学校、香川）　他。

362-0003 埼玉県上尾市菅谷 4-43　painterhjp@gmail.com

場所：釜ヤカタ

場所：廊下壁面

Line

〔石、壁、その他〕

線と認識した時点でそれには意味が発生します。

Water

〔木、造花、糸、その他〕

時々水が怖くなります。

内海 仁／ Hitoshi UTSUMI

1969　香川県で生まれる
1992　東京造形大学彫刻科卒業

2016　開講！ぼくらの未来授業（相模原）
　　16th アートでたんぼ（香川県高瀬町）
　　SuperOpenStudio（相模原）
　　山なみ芸術祭（香川県塩江町）
2017　福島からの手紙 3（福島市）
　　17th アートでたんぼ（香川県高瀬町）

252-0144 神奈川県相模原市緑区東橋本 2-17-26　info@iomoi.jp　https://utsumihitoshi.wordpress.com

当日は大人子供合わせて 62 名と予想を上回る参加者があった。細川麻実子さんの身体表現と本多真理子さんの美術プログラムで展開された。

細川さんは「互いに声を出す」「互いを見て真似る」「感情をからだの部位で表す」などの動きを通して、不思議な感覚に浸る体験だった。そして互いに触れ合い、参加者は大きな丸い一つの円になった。

本多さんは 4 部構成。「高い高い !」チームで丸めた新聞紙を高く積み上げる競争。水袋が破裂してできた水跡をチョークで囲む「囲む囲む !」、「長く長く !」は 10 メートルの紙に竹竿の先で線を描き、「振って振って !」では、箱や紙袋に地元の絵の具を塗った松ぼっくりや小石を入れ、振った。やがて開けた箱や紙袋からは、思いもよらなかった色彩と形態が出現する。

参加者にとって、このようなワークショップは初めての経験だった。戸惑い、驚き、そして感受する 2 時間は、あっという間に過ぎ、子供も大人もワークショップのさわやかな嵐に巻き込まれていったかのような時空だった。

式根島でもこのような場を作りたいとの声も上がった。お二人の講師と共通の時間を持てたことを感謝している。

NPO にいじま村
こどもくらぶ

KODOMO CLUB
Non-Profit Organization of
Children´s Club, Niijima

On the day, we had as many as 62 visitors, far more than our anticipation. Ms. Mamiko Hosokawa ran a workshop on bodily expressions and Ms. Mariko Honda held an art programs.

At Ms. Hosokawa's, participants experienced an unusual feeling through body movements such as "to voice to each other", "to mimic each other" and "to express a feeling by a body part." Then, they were asked to touch each other to form a huge round circle.

Ms. Honda's program comprised four parts; in "high high!", participants competed in piling up folded newspapers as high as possible; in "circle circle!", they were asked to draw a line on the ground by chalk to circle water blots left by a water balloon broken; in "long long!", they drew lines on a ten-metre-long paper with a long bamboo rod; and in "swing swing!", participants swung boxes and paper bags in which painted pinecones and pebbles were stuffed. The boxes and bags eventually opened to show the contents in a combination of totally unexpected colours and forms.

It was the very first time that the participants had experienced such workshops. They were more or less puzzled, amazed and sharpened their senses. Two hours passed by like a flash, and it was such a space-time that they all, whether children or adults, felt as if they were just caught in a refreshing gale.

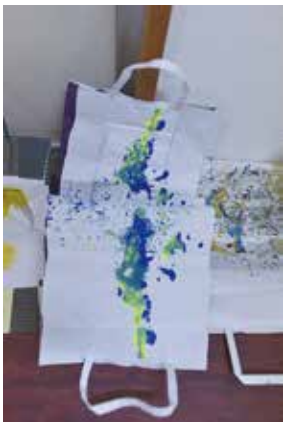
Some requested that such a workshop should be held also in Shikine island. We thank both of Ms. Hosokawa and Ms. Mariko for their having shared such a wonderful time with us.

大勢の参加があったのは、晴天無風の天候だけではなく、20 年の実績がある新島「こどもくらぶ」の日頃の活動の誠実さと信頼の証だと思います。参加者募集のみならず、素材集めや会場設営でもお世話になりました。私たちにとっても、楽しい経験となりました。

ワークショップの内容につきましては、第 1 回に参加した堀尾貞治氏の魂を受け継ぐことができることを目標に設定しました。出会いと継続に感謝します。

本多 真理子

ワークショップ
9 月 10 日 [日]
場所：光と風の塔、三郎浜



細川 麻実子

加藤みや子ダンススペースメンバー
身体に障害を持つダンサーを含む Integrated Dance Company 響 -KYO メンバー
高齢者身体機能訓練インストラクター

幼少より加藤みや子に師事。10 代より数々の舞踊舞台、公演活動に出演し、ベルギーへ留学。帰国後は運営する studio COMMU を拠点に、幼児から大人までダンスの基礎や振付を通して指導する傍ら、作品クリエイションやワークショップを継続し活動の幅を広めている。動物の反応行動から発展させたダンス、コミュニケーションから生まれた動き、身体の内外で揮発する動きにフォーカスをあてて研究を重ね身体表現を続けている。
繊細な感性とダイナミズムを併せ持つダンサーとして好評を得ている。

展示は海から 70 mほど登った亜熱帯の植物が生い茂る傾斜地。この地特有の赤い土が、アウトソールの溝に入り込み、登りも下りも滑りやすい。森の木々と高低差が幸いするのは互いの作品の棲み分けがしやすいこと。入り口から斜面の一番上まで点在する、かつて使われた小屋や炭焼き窯、子どもの遊具や幾つかの蔓性の果物の棚などがそれぞれの表情を醸し出す。ある場所からは港も見通すことができ、ここが島であることが再認識できる。今年度展示した大島や新島と一番の相違は、野外だけの展示場所であったことで、そのことが、逆に小笠原父島の展示を特徴あるものにしている。

世界のこどもたちの絵画展 写真左上
インフォメーションブース 写真左下
12 月 8 日 [金] ～ 10 日 [日]
作家プレゼンテーション 写真下
12 月 9 日 [土]
場所：地域福祉センター

写真下左側：髙田 芳樹「その場に在りしものたち」
本多 真理子「振り子振動波」
関 直美「マンゴーの木の下の密やかな楽しみ」
写真下中央：高嶺 春夫「海～うんちより」
田中 千鶴子「島と人 いとなみ」
写真下右側：佐藤 淳「小笠原 ぽ」
竪川 可奈「Drops of Settlers」
原 博史「森の神秘と憂鬱」

[主催]
東京の島々を結ぶアート航路開発委員会

[共催]
アートアイランズ TOKYO2017 実行委員会
NPO 波浮の港を愛する会

[後援]
大島町
新島村
東京都大島支庁
大島町教育委員会
新島村教育委員会
大島町商工会
新島村商工会
一般社団法人大島観光協会
新島観光協会
新島ガラス協会
七島信用組合
東京七島新聞社
波浮婦人会
波浮小波会老人クラブ
ニュージーランド大使館
駐日韓国大使館韓国文化院
台北駐日経済文化代表処

[協賛法人・企業・団体]
㈱ 日本標準
東海汽船 ㈱
村上工業 ㈱
公益財団法人美育文化協会
東京造形大学校友会
東京工芸大学芸術学部映像学科映像情報研究室
JUN 設計事務所
九段坂総合法律事務所
社会福祉法人武蔵野会大島恵の園
七島信用組合
㈱ 大島牛乳
平野建設 ㈱
㈱ 加藤設備
東京土建杉並支部阿佐ヶ谷分会
合同会社くき学園
多摩美術大学校友会
NPO 新島村こどもくらぶ

[助成]
芸術文化振興基金
公益財団法人 朝日新聞文化財団

芸術文化振興基金助成事業

[協賛ギャラリー（地域名）]
金子勇博古館（波浮）
大島農民美術資料館（元町）
四谷三丁目ランプ坂ギャラリー（四谷）
ぎゃらりー由芽（三鷹）
ATELIER・K（横浜）
K's Gallery（銀座）
GALLERY 枝香庵（銀座）
TOKI Art Space（青山）
SPC GALLERY（日本橋）
ギャラリー檜（京橋）
ギャラリー茶房 歳時季（荻窪）
ギャラリーｆ分の1（神田）
ギャラリー れがろ（荻窪）
ギャラリー 現（銀座）
アートスペース月光醤油（福島）
ギャラリーせいほう（銀座）
Galerie VERGER（相模原）
カフェ & ギャラリー香文木（鴻巣市）
始弘画廊（南青山）
㈱ 制作美術研究所（越谷市）
Gallery & Café DODO（府中）
GALLERY KINGYO（千駄木）
十一月画廊（銀座）
いりや画廊（入谷）
ギャラリー GK（銀座）
Gallery Pepin（さいたま市）
O ギャラリー（銀座）
アートギャラリー絵の具箱（吉祥寺）
うみかギャラリー（香川）
アートスペース WHITE HEAD（元町）

[スペシャル・サンクス]
小久保 正雄　前田 孫一
前田 明永　瀧口 聖
秋澤 信吾　大沼 由美子
新和堂　藤井 七篤嗣
白井 嘉則　青木 健
佐藤 清　「薬師堂」関係の皆様
高橋 ちか　峰尾 佳伸
ホテル椿園　オアシスアイランドゲート
㈱ マルキエナジー　ベーカリー・ペルル
白木建設 ㈱　もてな島
宇戸 ナヲミ　白為土木 ㈱
村松興業 ㈱　大島旅客自動車 ㈱
旧甚ノ丸邸・旧港屋旅館管理の方々
河野 博　井波 未知子
小野寺 優元　松永 康
小笠原でお世話になった方々

[個人協賛]
伊藤 真澄　橋本 憲治
木戸 修　金城 安正
堀尾 貞治　前田 精史
田代 惠子　石田 敏行
岡本 美知子　林 舞衣子
石渡 眞理子　大成 恵
野見山 由美子　山田 三正
大沼 由美子　石坂 孝雄
梅村 勝　元木 孝美
かとう かずみ　小林 正孝
藤井 孝次朗　小林 初枝
松田 陽子　武藤 隆一
髙田 直樹　武藤 美子
和田 芳子　斉藤 敬子
内山 五月　菅野 美榮
三木 祥子　星 晃
岩出 まゆみ　古謝 宏
植松 正　佐藤 清
柳澤 剛　吉川 泰全
柳瀬 洋樹　藤井 虎雄
秋廣 道郎　荒瀬 庸夫
中山 登　白井 嘉則
藤井 七篤嗣　馬場 仁
時得 孝良　バーバラ
阿部 比左志　井上 しげこ
岩瀬 千鶴子　髙田 てる子
植松 正光　髙田 洋子
小原 義也　その他匿名の方々

[ボランティア]
今成 秀榮　小川 淳子
荒瀬 庸夫　武藤 隆一
西浜 芙美　武藤 美子
柏木 早苗　藤澤 千絵
金川 加代子　後藤 美喜子
前沢 富子　藤井 麗
秋田 京子　滝沢 あや
中村 徳枝　佐藤 有佳子
宇山 尚子　古市 明子
櫻井 きみ子　伊東 直昭
藤巻 繁子　石渡 眞理子
大井 知美　石渡 土水香
金川 文代　佐藤 有
池谷 博子　岡部 安曇
秋田 眞由美　尾形 房子
藤井 由美子　髙田 洋子

ZOKEI FRIENDS

東京造形大学校友会

東京造形大学校友会事務局
〒192-0992 東京都八王子市宇津貫町1556
TEL&FAX: 0426-37-3093　www.zokei.net

JUN 設計事務所
オフィスビル・個人住宅・公共建築
集合住宅・ホテル・建築相談&設計
一級建築士　佐藤 淳

TEL: 03-5364-5688　Email: jun-s@f6.dion.ne.jp

Our Story

船は、東京の摩天楼の間の水路をぬうように大海へ進み、やがて緑多き島々に着きます。この地には独自の風土があり、文化があり、日々の生活があります。壮大な自然の産物である、美しいが時に火を吹く山があります。19世紀中頃までは海そのものが他国との距離そのものであり、物も情報も海からやってくるものでした。しかし今、情報は世界中のどこからでも瞬時に、交通インフラの整備は人や物を遠くから短時間で運ぶ時代となりました。急激な変化は、文化の変容を迫るものでもあります。

私たちは、自分たちの位置を絶えず知る必要があります。そうすることで、今日的課題が明確になります。島外からあるいは海外から訪れるアーチストは、この島をどのよう感じ、どのように表現するのでしょうか。地域から受ける印象だけでなく、アーチスト自身の課題や時代性をどのように表現するのでしょうか。

島と大都会･東京の関係は、日本と世界との関係に似ています。島で思考し、島で作ることが、日本を考えることに繋がればとても面白いことです。「島々を結ぶアート航路」とは、物理的な航路をさすのではなく、文化の流れや意思の流れを共有することなのです。インターネット上での情報交換が容易になった今こそ、島の地に立ち現地の魅力や想いをウェブの風に乗せ世界に発信するのです。船乗りは、世界からの旅人であり島国の我々自身なのです。

Art Islands TOKYO

世界と日本、本州と島、島と島、自然と人間、自然とアート、アートと文明、貴方と私、対象と被対象を表現しています。東京の島々を結ぶアート航路開発委員会は、現代美術を通じて東京の島々を世界に発信していきます。

It represents the relationship between the world and Japan, Honshu (main land in Japan) and an island, an island and an island, nature and a human being, nature and art, art and civilization, you and me, an object and a cover object. Planning and Development Committee for Contemporary Artways Linking Tokyo Islands introduces islands of Tokyo to the world through contemporary art.

編集後記／ Editor's Note

夜になり、波浮小学校に明かりが灯されるのを見ると、今年も美術展の時期がやってきたと思う人あり。ご支援していただいている４つの画廊がその歴史に幕を閉じることになった。銀座の「現」（1987年から30年間）、お茶の水の「f分の１」（1999年から19年間）、荻窪の２つの画廊「歳時季」（1997年から22年間）、「れがろ」（2005年から12年間）。いずれも本展覧会活動に対する暖かで厳しい視線をいつも向けてくれた画廊だった。改めて感謝したい。
12月：小笠原展を実施した。伊豆七島で実施できていない島が多いのに、なぜ小笠原なのかという声もあるが、検証も含め７年目の成果としたい。

大島では、展覧会時期にゴジラ像を建てる話があり「島」の経済と観光と文化のあるべき姿について話すいい機会だった。新島では式根島から子どもたちが参加したワークショップを行った。

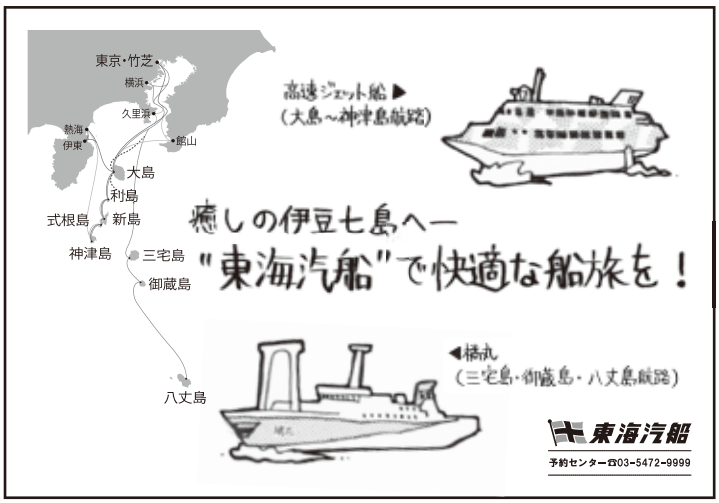
現在、日本の各地で美術展・芸術祭が数多く行われ、その質が問われる中、本展の作家自ら運営すること、離島で行う美術展の意味を明確にしていきたい。

受付や会場保持・貸与、情報提供・送迎・用具貸与など、地域の方々、役場の皆様、遠路ボランティアで参加した方、全ての皆様に重ねて感謝いたします。

運営・編集者一同

[アートアイランズ TOKYO 事務局]
キュレーション：[大島] 本多 真理子　[新島] 髙田 芳樹
準備・運営：[大島] 藤井 虎雄　尾形 勝義　高嶺 春夫
[新島] 高草木 裕子　武藤 美子
[小笠原] 高嶺 春夫
全体デザイン・広報：竪川 可奈
見学資料：小林 ナオコ　油井 瑞樹

[報告集]
発行日：2018年２月20日
発行：東京の島々を結ぶアート航路開発委員会
発行所：177-0035 東京都練馬区南田中 2-4-11
編集・デザイン：Tatekawa and Associates
写真提供：高嶺 春夫　高草木 裕子　髙田 芳樹　李 容旭
竪川 可奈　Miguel Velazquez　油井 瑞樹　柴辻 健吾
本多 真理子　貴俵 秀行
翻訳協力：村上 曜
表紙写真作品：高草木 裕子「風を受けそよぐ」



日本標準は、教材・教具・教育図書をとおして
「すべての子どもに学力を」
を実現します。

すべての子どもに学力を
日本標準
本社：〒167-0052 東京都杉並区南荻窪3-31-18
統合物流センター：〒350-1221 埼玉県日高市下大谷沢宮ノ前91-5
URL http://www.nipponhyojun.co.jp/

The 7th International Contemporary Art Exhibition, Art Islands TOKYO 2017

Art Islands
TOKYO

www.art-islands-tokyo.com